



3期(平成20年～令和2年)の市政を顧みて

平成20年4月に市長に就任し、3期12年の任期を務めてまいりました。この間、少子高齢化やIT技術の進化等、著しい社会の変化に対応できる仕組みを創るべく、自助・共助・公助の理念のもと活動してまいりました。

就任前から市の課題であった高齢化・人口減少については、「市民総ヘルパー構想」を提唱し、もやいの精神で社会に参画、地域全体で高齢者を守る体制を構築するとともに、人口増・定住促進のための「結婚サポート事業」をスタートさせました。また、各行政区への「自主防災組織」設立や「まごころ代行サービス」「ワンストップ総合窓口」導入など、市民の皆さまが安心・便利に生活ができるよう取り組んでまいりました。4月24日には、市の新たな観光・農業振興の拠点となる「道の駅三矢の里あきたかた」がオープンします。

将来に向けたインフラ整備としては、「高速通信網(光ファイバー)」、「お太助フォン」、「新公共交通システム」、「テレワーク」



サテライトオフィス」「東広島高田道路」等を整備・導入しました。これらは、今後も市民の皆さまの生活に密着し、利便性の向上に資するものと考えております。

子育て支援では、24時間保育体制(「ファミリーサポート」「病児保育」)の整備をはじめ、3歳以上の保育「完全無償化」、「在宅育児世帯支援給付金制度」の導入など、子育て環境の充実を図ってまいりました。

学校教育においては、他市町に先駆け市費での「学習補助員」配置、小学校への「電子黒板」「タブレット」設置、また、学校統合を推進し「八千代小学校・甲田小学校・愛郷小学校・高宮小学校」を開校するなど教育環境の整備に努めてまいりました。

文化・スポーツでは、「神楽」や「毛利元就」、「サンフレッチェ広島」や「ワクナガレオリック」などを支援し、地域の宝として魅力を発



信しました。特に、神楽については、「高校生の神楽甲子園」「ひろしま安芸高田神楽東京公演」の実施や海外公演(ブラジル・メキシコ・フランス・タイ)、首都圏の大学との協定締結など市の知名度向上につながったのではないかと思います。

人権を尊重したまちづくりについては、部落差別をはじめ、女性差別(男女共同参画社会)、人種差別等あらゆる差別の解消に向け啓発事業を展開しました。また、外国人とのコミュニケーションを基調とし、お互いが暮らしやすい地域を目指す「市民総ガイド構想」を提唱し、防災については、災害時でも市民の皆さまの安全・安心を確保するため、民間企業を含め各種団体と物資供給や支援に関する協定を締結し、有事に備えました。

令和2年度以降も限られた財源の中で、事業を運営しなければなりません。市民の皆さまと行政が互いに信頼を深め、一丸となってよりよいまちづくりを推進してまいります。引き続き行政に対するご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。